

設立当初の事業年度の事業計画書

期間: 法人成立の日から2026年3月31日まで

1 事業実施の方針

設立当初の事業年度は、代表者単独の運営により、以下の事業を確実に実施することを目標とする

- 恵まれない子どもたちにロボティクス教育を提供し、将来のキャリア機会への接続を促進する。まず野菊荘サポートセンターにて活動を開始し、年度内にさらに2つの施設へ展開、各施設週2回の指導体制を構築する。
- 運営の安定化と拡大のための資金調達計画を策定・実施する。
- 文部科学省の「初等中等教育におけるジェネレーティブAI活用ガイドライン（Ver.2.0）」に準拠した子ども向けAIカリキュラムを開発する。
- 本法人の事業内容をより多くの市民に知っていただくため、ウェブサイトを立ち上げる。
- 翌年度からのボランティア導入に向けた基礎的な準備情報収集を行う。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	具体的な事業内容	実施予定	受益対象・予定人数	事業費 予算額 (千円)
①子ども向けロボティクス・AI教育事業	<div>・野菊荘サポートセンターにて週1回のロボティクス・AIクラスを代表者が開始する</div> <div>・年度内に新たに2施設へ展開し、野菊荘サポートセンターを含む計3施設で各週2回、合計週6回のクラスを代表者が提供する体制を整備</div> <div>・LEGO SPIKEキットを使用したハンズオン学習活動を行う（1レッスン4名対象）</div> <div>・文部科学省ガイドライン（Ver.2.0）に準拠した子ども向けAIカリキュラム（8～14歳対象）を開発・実践</div>	<div>(A) 当初週1回、拡張後週6回（各施設週2回）</div> <div>(B) 野菊荘サポートセンター、および追加2施設</div> <div>(C) 1人（代表者）</div>	<div>(D) 社会経済的に恵まれない子ども</div> <div>(E) 当初週4人、拡張後週24人</div>	2,577.6
②ボランティア教師育成事業	<div>・翌年度のボランティアプログラム本格導入に向けた情報収集、およびプログラム概要の検討を行う</div> <div>・具体的な募集や研修は翌年度に実施する</div>	<div>(A) 随時</div> <div>(B) 主たる事務所</div> <div>(C) 1人（代表者）</div>	<div>(D) N/A</div> <div>(E) N/A</div>	20

事業名	具体的な事業内容	実施予定	受益対象・予定人数	事業費 予算額 (千円)
③AIとロボティクスの普及啓発事業	・ウェブサイトを通じた情報発信、活動紹介資料の作成と配布 ・小規模な体験会や説明会を必要に応じて開催	(A) 随時、ウェブサイトは年度当初に立ち上げ (B) 主たる事務所、オンライン、その他必要に応じた場所 (C) 1人（代表者）	(D) STEM教育に関心のある市民、潜在的な支援者 (E) 設定なし	18
④環境整備事業	・初期活動及び事業拡大（計3施設）に対応するため、LEGOロボティクスキットを2台購入する（平均5.5万円/台） ・AI教育のための基本的な教材や機材を整備する	(A) 年度当初および事業拡大時 (B) 主たる事務所および各活動施設 (C) 1人（代表者）	(D) 当法人の教育プログラム参加者 (E) 週24人（拡張後）のプログラムに対応	110

翌年度の事業計画書

期間: 2026年4月1日から2027年3月31日まで

1 事業実施の方針

前事業年度に確立した3施設での活動を基盤とし、以下の計画を確実に実施することを目標とする：

- ・新たに3名のボランティア教師を受け入れ、指導体制を強化し、週合計12回のロボティクス・AIクラスを提供する。これにより、週約48名の子供たちへの教育機会を確保する。
- ・既存3施設での活動を深化させるとともに、必要に応じて追加で1施設の展開も視野に入れ、より多くの子どもたちへのリーチを目指す。
- ・生徒の継続的な学習意欲を促進するため、発展的なロボティクス・AIカリキュラムを作成し、導入する。
- ・デジタル学習プラットフォームの構築準備を進め、基本的な学習リソースの提供を目指す。
- ・ウェブサイトや広報資料を継続的に活用し、支援者や協力者との連携を強化する。
- ・企業からのスポンサーシップ獲得や、大学等研究機関との連携も視野に入れ、活動の質と安定性を高める。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	具体的な事業内容	実施予定	受益対象・予定人数	事業費 予算額 (千 円)
①子ども向けロボティクス・AI教育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の3施設において、代表者と新たに受け入れるボランティア教師3名の協力体制により、週合計12回のロボティクス・AIクラスを提供 ・社会経済的に恵まれない子どもたち（8～14歳対象）に対し、発展的カリキュラムを用いたハンズオン学習活動をLEGO SPIKEキット等を使用して行う ・年度末には生徒の学習成果を発表する「年間発表会」を開催 ・必要と判断された場合、第4の施設へプログラムを展開する準備を行う 	<p>(A) 週12回（年間通して）および年間発表会（年度末）</p> <p>(B) 既存3活動施設、および必要に応じて追加1施設、年間発表会は京都市内の施設</p> <p>(C) 4人（代表者1名、ボランティア教師3名、事務局職員がサポート）</p>	<p>(D) 社会経済的に恵まれない子ども</p> <p>(E) 週48人、年間発表会参加者・関係者含む</p>	3,622.8
②ボランティア教師育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新たにボランティア教師3名を募集・選考し、当法人の教育理念や指導法に関する体系的な研修を実施 ・ボランティア教師の活動をサポートし、定期的なミーティングやスキルアップ研修を通じて指導の質を維持・向上 ・明確な役割分担と責任体制のもと、ボランティアが活動しやすい環境を整備 	<p>(A) 募集・選考（年度当初）、初期研修（随時）、定例ミーティング・研修（月1回程度）</p> <p>(B) 主たる事務所、各活動施設</p> <p>(C) 1人（代表者）、事務局職員がサポート</p>	<p>(D) STEM教育や社会貢献に関心のある大学生や社会人</p> <p>(E) 3名（育成対象ボランティア）</p>	72.0
③AIとロボティクスの普及啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・AI・ロボティクス教育の重要性や当法人の活動内容について、より多くの市民や関係機関に理解を深めてもらうため、活動報告会や体験セミナーを年数回開催 ・支援者や関心を持つ層に向けて、定期的なニュースレターを発行し、活動状況や成果を報告 ・大学の研究パートナー等との連携を模索し、教育効果測定に関する小規模な評価研究の実施を検討 	<p>(A) セミナー・報告会（年2-3回）、ニュースレター（四半期ごと）</p> <p>(B) 京都市内の施設、オンライン、主たる事務所</p> <p>(C) 1-2人（代表者、事務局職員、ボランティア協力）</p>	<p>(D) STEM教育に関心のある市民、企業、教育関係者、助成団体</p> <p>(E) 各回30-50人程度（セミナー等）、ニュースレター購読者</p>	42.0

事業名	具体的な事業内容	実施予定	受益対象・予定人数	事業費 予算額 (千円)
④環境整備事業	<div><div>・ 第4の施設へ展開する場合に備え、追加のLEGOロボティクスキット（3台程度、平均5.5万円/台）を購入</div><div>・ 生徒が基本的な学習リソースにアクセスできるよう、デジタル学習プラットフォームの開発・導入準備を進める</div><div>・ ボランティア増加や活動拡大に伴う事務局体制の強化を図る</div></div>	<div><div>(A) 随時（必要に応じてキット購入、プラットフォーム開発準備は通年）</div><div>(B) 主たる事務所、追加施設（該当する場合）</div><div>(C) 1-2人（代表者、事務局職員）</div></div>	<div><div>(D) 当法人の教育プログラム参加者、ボランティア教師</div><div>(E) 週48人のプログラムおよび組織運営に対応</div></div>	255.0